

桜の会15年の歩み

昭和62年より平成14年までを写真で見る

奈良県脳卒中者友の会「桜の会」



1987年（昭和62年）
国立療養所西奈良病院（奈良市）で桜の会が14名で発足する。



1987年（昭和62年）
発足した翌月には桜の会グルメの集いを16名で開催していた。



1988年（昭和63年）
病院の中庭に桜の名所がある。薬師寺と若草山を見ながら花見会を。



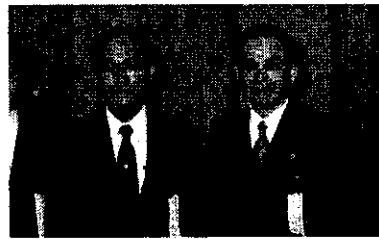
1988年（昭和63年）
初めての野外活動東大寺横で開催された「シルクロード博」を見学。



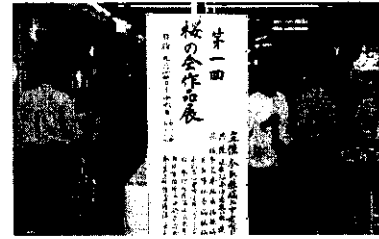
1989年（平成元年）
NHKアナウンサー古谷敏郎さんが家族への感謝の集いに司会と奇術。



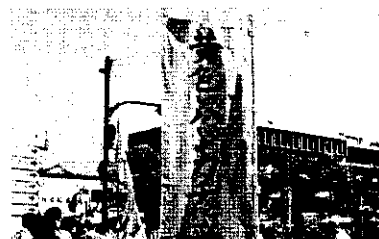
1989年（平成元年）
初めての一泊訓練旅行に31名が参加。生駒山荘で元気に楽しく過ごす。



1990年（平成2年）
ある会合で上田奈良県知事と同席。知事と約30分間脳卒中について話し合い。



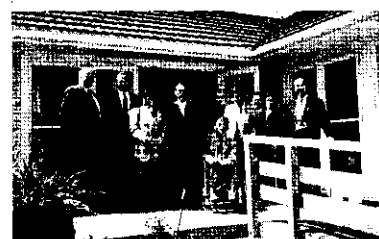
1990年（平成2年）
奈良ファミリーの1階で第一回桜の会作品展を開催。75点を展示する。



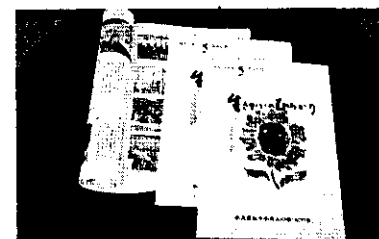
1991年（平成3年）
黄色いハンカチ運動に参加。近鉄奈良駅前前で会員皆さんで配布する。



1991年（平成3年）
柏木会長が榎原文化会館で満員の中講演。上田知事が最後まで聞かれる。



1992年（平成4年）
第1回海外訓練旅行に7名が参加。オークランド脳卒中協会を表敬訪問。



1992年（平成4年）
第5回桜の会総会で5周年記念誌を発刊。B5版118頁に投稿と調査資料。



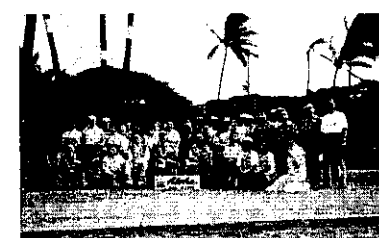
1993年（平成5年）
第6回「家族への感謝の集い」に120名が集まりヨガ体操に全員が張切る。



1993年（平成5年）
わが国はじめての脳卒中予防週間を開催。報道機関の全社から取材を受ける。



1994年（平成6年）
バス一泊訓練旅行で大山蒜山高原の絶景に満悦。バス2台69名が参加。



1994年（平成6年）
海外訓練旅行のハワイへ44名が参加。海外旅行は1年分のリハビリが誕生。



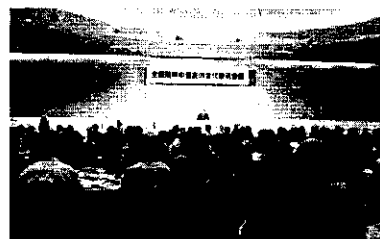
1995年（平成7年）
阪神大震災の仲間を
救う義援金の募集。
障害者災害マニュアル
を作成。



1995年（平成7年）
奈良市姉妹都市のキャ
ンペラを表敬訪問。
ケイト・カーネル首
席大臣と歓談。



1996年（平成8年）
奈良県議会議員室に
出口県議会議長を訪
問。桜の会と脳卒中
の現状報告。



1996年（平成8年）
全国脳卒中者友の会
代表者を奈良県新公
会堂に迎える。30団
体の230名。



1997年（平成9年）
東京都で「全国脳卒
中者友の会連合会」
結成。初代会長に柏
木知臣会長が就任。



1997年（平成9年）
第10回桜の会総会と
10周年記念誌を発売
し全国に無料配布。
250名参加。



1998年（平成10年）
バス一泊訓練旅行に
NHKが同行取材。
全員が阿波踊りに熱
狂し全国放映へ。



1998年（平成10年）
全国脳卒中予防の日
を奈良県新公会堂で
開催。桜の会が主催
511名参加。



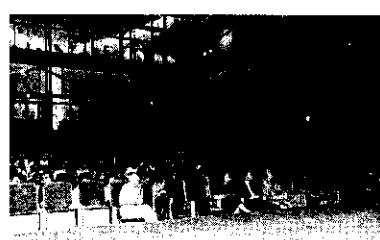
1999年（平成11年）
奈良市ふれあい祭り
に桜の会が参加し
「綿菓子」「ぽっこん」
で協賛。



1999年（平成11年）
桜の会作品展を本年
より奈良市役所1階
で開催。大川市長よ
り絶賛を。



2000年（平成12年）
第12回近畿連合会総
会を奈良市で開催。
「桜の仲間」を会員
で合唱する。



2000年（平成12年）
脳こうそく「予防シ
ンポジウム」をなら
100年会館で開催。3
50名参加。



2001年（平成13年）
出前（ふれあい）ト
ークを奈良県各地で
開催する。参加者より
好評！



2001年（平成13年）
全国連合会でハワイ
訓練旅行を行い125
名参加。ハワイから
同病者35名が出席。



2002年（平成14年）
リフトバス2台でユ
ニバーサル・スタジ
オに65名が参加。一
日を楽しむ。



2002年（平成14年）
桜の会失語症合唱団
の練習風景。言葉が
出ない会員さんが流
暢な合唱。

奈良県脳卒中者友の会「桜の会」とは

一年に一度だけでもいい、お互いが元気になった顔を見せ合い、脳卒中という病気から立ち直った苦労話や家族が一緒になって楽しく語り合える、そんな会を作ろう！春がくると桜の花が快い青空にいっぱい映え！そこから元気がでてくるような、そのような会にしたいと言うのが「桜の会」の名称になった。

昭和62年10月20日、奈良市にある国立療養所西奈良病院の休憩室で「奈良県脳卒中者友の会「桜の会」が14名でスタートし、15年の歳月を経た平成14年10月20日には324名の会員となり、脳卒中の克服と受容から元気を取り戻し、「生きるという希望」が大きな輪となり広がってまいりました。脳卒中を体験した私たちは、後遺症という苦悩と残念な障害者生活のなかから、お互いに励まし合い、情報の交換から同じ病をもった会員と家族の交流により友情を深め、悩みと苦しみを乗り越え、第2の人生を「明るさと生きがい」の目標を持つまでになってまいりました。

脳卒中の残念さと恐ろしさは、なった者とその家族が一番よく知っております。このような病気は絶対に避けて欲しい！健康であるのが最高の幸せなんです。体験した私たちから啓発して行こうと、平成5年には「脳卒中予防週間」を全国に先駆け開催し、それ以来「脳卒中予防の日」「第1回全国脳卒中予防の日」「脳こうそく予防シンポジウム」など講演会を開催し、桜の会創立5周年と10周年には記念誌として「生きがいのひろがり」の冊子、「脳卒中＝こんな病気にならないで」の冊子などを発刊し、全国各地の希望者に無料配布してまいりました。平成8年には厚生省から脳卒中患者が173万人と発表されましたが、桜の会では全国に散在している脳卒中患者団体に呼びかけ「全国脳卒中者友の会代表者会議」を奈良県新公会堂に招集、翌年「全国脳卒中者友の会連合会」を結成する運びになり、その運営の責任者として3年間受け持ってきました。

こういう堅いことばかりをやってきた桜の会ではありません。発足から今日に至るまで毎月会報を発行し、情報の交換、行事の案内、会員からの投稿、リハビリに関する情報等を掲載しております。年間の行事としては、新年懇親会、奈良県各地への出前（ふれあい）トーク、一年に一度だけ贅沢をさせて貰う「グルメの集い」、近畿と全国への交流会、後遺症を乗り越える「作品展」、家族への感謝の集い、日帰りバス訓練旅行、一泊訓練旅行、海外訓練旅行などを開催し、平成13年から「桜の会失語症合唱団」を結成し、言葉がでない失語症の会員がコンサートの開催により明るさを取り戻しております。障害者が贅沢と思われる海外旅行も、機能回復訓練と精神的な回復を目標にして、何年もかかっていたの蓄えにより目標を達成することは計り知れない大きな喜びとなっております。「海外旅行は一年分のリハビリになる」と、たまたま言った言葉が今や全国各地で言われるようになっていきます。ハワイ旅行で寝たきりで参加した会員が歩きだしたこと、車椅子から立ち上がり杖を持って歩行をはじめたことを目の前にして発した言葉でありました。

脳卒中という病気に勝つことは難しいことです。しかし、脳卒中に負けてはならない、脳卒中という病気と仲良くすることは可能であります。私たち桜の会は、脳卒中の予防と再発防止の啓発、寝たきり防止と介護保険による要介護の軽減など、「あなたが脳卒中にならないために、あなたが脳卒中を乗り越えるために」を考えながらも、明るく楽しいことをモットーに「第2の人生のひろがり」を追求してまいる桜の会です。

奈良県脳卒中者友の会「桜の会」事務局

〒631-0823 奈良市西大寺国見町1丁目6-5 明光ビル503号

TEL (0742) 49-0230 FAX (0742) 49-0230

再び生きがいを見つける



失語症の人たちによる日本初の合唱団を結成し、本番に向けて練習を重ねるメンバー—奈良市内で今年2月

失語症の人らが合唱団

奈良 青春歌など7曲披露

日本初

脳卒中患者のついでに、真脳卒中者友の会「桜の会」(奈良市)が、言葉がうまく話せない失語症の人らによる日本初の合唱団を結成し、20日に奈良市内である会館で15周年記念式典でお披露目する。名前も話せない人、小銭計算ができないため紙幣でしか買物物ができない人、英語を話せなくなった元米国籍在員……。メンバーは合唱団の団名で「再び生きがいを見つけ、家族と交わす言葉を取り戻しついで」。

【阿部浩之】

合唱団の結成は昨年10月。脳内出血で右半身不随となり、自らも失語症に苦しんだ同会の柏木知臣会長(74)が、総会で「みかんの花咲く丘」を歌おうと呼びかけた。予想外にも18人の会員が登壇。うつむき加減の人は背筋を伸ばし、声が出ない人もつれそうに口を動かした。「皆、歌が好きなんだ」。日本初の合唱団結成が決まった。

合唱団メンバーは40〜70代の28人。5回の合同練習には、ジャズピアニストの香川明徳さんがボランティアで参加。メンバーは、香川さんのピアノ演奏を録音したテープを持ち帰り、家族と一緒に自宅練習を重ねてきた。

99年春、脳卒中と診断され、今も通院生活を送る大和郡山市の女性(77)は、普段は居間でじっとしていつか時間が多かった。看病する長女(58)の勧めで今年8月、合唱団の4回目の合同練習を初めて見学。優しく歌に誘う会員に促されて舞台に上がり、家ではあまり見せない笑みまで浮かべ、「リンゴの唄」を口ずさんだ。長女は「前向きになった母に驚き、目頭が熱くなった」という。日常会話はまだ不自由だが、ほぼ毎日30分の練習を2人で重ねてきた。

柏木会長は「みんな姿勢がよくなり、驚くほど大きな声が出てきた。目標を持つことが大事。全国の人にぜひ活動を知ってほしい」と話している。

記念式典でメンバーは、合唱団のシンボルとなる蝶ネクタイやリボンをつけ、観客約400人を前に青春歌など7曲を披露する。